

《イエス様の最後の遺言》

イエス様は、生まれた時、飼い葉桶に寝かされていました。亡くなる時には、十字架の上でお亡くなりになりました。そして自分の墓ではなく、ある人が自分のために使おうとした墓に入って眠りにつかれました。結局、生まれた時から、葬られるときまでご自分のものは何もなかったのです。人間的な表現では、本当にみすばらしい悲惨な人生を過ごした方です。その方を2000年経った今、私たちは神様の子として褒め称えています。

昨日、説教の中で、イエス様が残してくださった遺言について二つのみ言葉を申しあげたことを覚えていらっしゃると思います。

一つめは、最後の晚餐の時にパンを割いて渡しながら、「これは私の体である。私があなた方に自分の体を割いてあげるようにあなたがたもそのようにしなさい。」「これは私の血の杯、これを受けて私が今まで見せた全てのことをあなた方も行いなさい。」という遺言でした。

二つ目は、食後に弟子達の足を洗いながら、「私があなたがたにしたように、あなた方も人々にこのようにしなさい。」という最後の遺言です。

この二つは、室内でおっしゃった遺言です。

今日は、十字架の道を歩まれます。そして十字架の道でも一つの遺言を、十字架の上でもまたもう一つの遺言を残されます。

今日はそれについて、皆様と話したいです。このヨハネの受難記には書かれていませんが、十字架の道で二度目に倒れたとき、エルサレムの婦人たちがあまりにも悲しく泣いている姿を見て、イエス様は、「婦人たちよ、泣くな。むしろ私よりあなたとあなたの家族のために泣きなさい。」とおっしゃいました。二度倒れるほど気力を完全に失ったその状態の中でもイエス様は、憐れみ深い心で人々を眺めたのです。

"私は御父のみ旨に従うだけ。自分のことより私が心配しているのは、ここに残るあなた方のこと。あなたとあなたの家族のために泣きなさい。"と心配されるくらい善く生きることが難しいことをイエス様はおっしゃっているのではないのでしょうか。「今、私のことは心配するな。私は全てのことを成し遂げて、自分の父のところへ帰る。しかし、残るあなた方をみたらまた私の心が痛む。あなた方はいろいろな試練があっても御父のみ旨のとおり生きなさい。」いわゆる、<善く生きなさい>という意味ではないのでしょうか。それが私たちに十字架の道でおっしゃった三番目の遺言だと思います。

そして四番目の遺言の場面は、くじ引きによって自分の着ているものが全て剥がされた場面です。その前には自分を産んでくれて、今まで誰よりも愛してくれた母が立っています。そして、聖書の中に特別に愛されたと書かれている弟子1人がいます。その前で裸の姿です。これ以上悲惨な姿を見せることはできなかったと思います。その最後の「成し遂げられた」という言葉の前に、このように言っています。「婦人よ、ご覧下さい。これはあなたの息子です。」「見なさい、この方はあなたの母です。」4つの遺言の中で最後にくださった遺言により、マリア様と私たちに親子の関係を作ってくださいました。

こういうことを通して、私たちはどのくらい母のみ心について心をこめて愛さなければならないかをはっきり分かることになります。力もほとんどなくなった最後の言葉は、死をかけて私たちに絆をくださったのです。こういうことをよく考えてみますと、私たちの母であるマリア様は、私たちにとってどのくらい大事な存在であるかよくわかると思います。

イエス様はこのようにおっしゃいました。"私に従おうとするならば、自分の十字架を背負ってついてきなさい。" イエス様は、私たちに本当に十字架を負わせることを望まれたのでしょうか。十字架がとても美しく、あなた方には十字架が必要だから、しっかり背負ってついて来なさい、の意味でし

ようか。十字架は本当によいものでしょうか。いいえ、そうではありません。もし私たちが神様に呼びかけられて天国に入るならば、絶対聞こえない言葉は、"十字架"という言葉だと思います。この世の中に生きる限り、そして十字架を愛さなければならないことを私たちが受け止めたなら、十字架は負いたくて負うのではなくて仕方なくてついてくるものになります。そういうことを誰よりもご存知だったイエス様は、その模範を私たちに見せたのです。人間の考え方で悪を滅ぼすためには、手段として必ず同じ悪を使わなければならないことをイエス様は悟られたのでしょうか。だから仕方なく、「あなた方がこの世の中で救われる唯一の方法は、敵を敵と考えずに愛の心で犠牲しながら十字架を負う方法しかない」とはっきりおっしゃったのでしょうか。

皆様、そういう意味で十字架は、私たちが負うものではなくて抱きしめるものだとよく話されています。

十字架のない方はいないと思います。私たちは死ぬときまで十字架を抱きしめなければならないと思います。十字架が美しくて、よいものだから抱きしめるのではなくて、この世の中に正しく善く生きるためには仕方なく抱きしめなければならないこと、これが信仰者の態度ではありませんか。

今日、イエス様が亡くなりました。その方の死の意味を私たちの心に刻みましょう。そして完璧ではなくても少なくとも真似をしようとする努力はしましょう。目の前に変化は見えないかもしれませんが、一年後、十年後には、頑張ってきた、という言葉が自然に出る日がくるでしょう。

皆様は、イエス様に愛されています。それを信じながら、私に今与えられているこの十字架は、ただの重荷、ただ負担なものではなく、私たちがもっとキリストが教えてくださった道に近づくための踏み台であることを認めましょう。それが私たちにとって一番素晴らしい賜物になるのではないかと思います。

イエス様は、今はご覧のように布に隠れています。悲惨な姿です。しかし、そこには逆説的な真理があります。私たちが希望としている復活が表され、その復活が、最後の絶対的な価値になるのだと皆様に申しあげてきました。そのために自分に与えられているこの十字架を感謝の心、神様の愛の印だと悟りながらもっと強く抱きしめましょう。この世の中は、美しさより汚いことが多いです。しかし、この世が全てではありません。私たちが行かなければならない道は一つです。その道のためにいつも自分の信仰の生活を振り返ってみながらもう一度頑張る気持ちになりましょう。

ありがとうございました。